

飯田での講演と泰阜村

大雪に見舞われた 20 日、南信州地域問題研究所の招きで飯田に講演に出かけた。名古屋は 9 センチの大雪であり、中央高速道のバスもストップし、急遽 JR に変更して中津川まで行き、それからバスで飯田に向い、遅れはしたが無事に到着できた。南信州の方が名古屋より積雪が少なく、講演の時間まで車で案内してもらうことができた。

前から泰阜村に行きたかったのが、飯田から上条村を経て泰阜村に向かってもらった。テレビでも見た狭くて曲がりくねった道を通って、高台に位置する村役場に行った。



人口と世帯	
泰阜村 12月21日現在	
人口	2139人
男	996人
女	1143人
世帯	760世帯

飯田県庁本庁

土曜日だが役場の職員の方に資料をもらうことができた。短時間ながら役場の雰囲気も感じることができた。診療所などを車から眺めながら、会場の飯田の方に向かった。松島村長の話のように、泰阜村の地形からしても、合併は得策ではないことを実感できただけでも訪ねた甲斐があった。

さて肝心の講演のテーマは、「地方制度調査会答申と市町村合併」である。合併への関心の高さからか 60 人近い参加があった。答申と関連づけて市町村合併の行方、地域自治組織の評価、三位一体改革の影響などについて話した。この地域は南信州広域連合などが組織され、18 市町村が共同で事業を行っている。そして、ゆるやかな統合をめざした「地域自治政府」構想も提案されている。答申の地域自治組織は、この地域の構想より後退したものであり、たまたま目にした南信州新聞によると、19 日の飯田市議会で答申に対する意見書が採択されたという。

現在、飯田市と喬木村・上村・南信濃村の 3 村で任意合併協議会が設置され、合併協議が進められている。飯田・下伊那一郡一市の構想もあったが、現在は 1 市 3 村の合併構想であるが、喬木村では住民投票も実施されるという。飯田市は合併で拡大してきた歴史があり、会場からも広域合併への疑問の声が出されていた。

(12 月 22 日 記)